

名城大学 学術フロンティア推進プロジェクト 平成21年度 研究成果報告会

2010年 1月 29日 (金) 9:45～16:00

名城大学天白キャンパス
タワー75 レセプションホール

現代の複雑な社会環境では多くの人々が様々なストレスによって不安・恐怖・葛藤・失望・怒りなどの心理的問題を抱えている。このようなストレス社会におけるこころの問題や、21世紀の超高齢化社会における「脳」と「こころ」の問題には、解決すべき多くの課題が残っている。脳は生命活動を営む上で欠かせない生物学的な高次中枢であると同時に、人間的・社会的生活を営むためのこころを生み出す器官でもある。本報告会では、現在までに当プロジェクトで明らかにされた成果の報告を通し、脳を含めた『人間』に対する理解を深めることを目的とする。

1. 研究テーマA 『脳の発達とストレス』
2. 研究テーマB 『脳とこころの病気』
3. 研究テーマC 『こころの発達とストレス』

問い合わせ先：名城大学学術フロンティア推進事業事務局 担当：並河 TEL：052-839-2735
E-mail：makin@ccmfs.meijo-u.ac.jp

名城大学学術フロンティア 平成 21 年度研究成果報告会

日時：平成 22 年 1 月 29 日（金） 9 時 45 分～16 時

場所：名城大学天白キャンパス タワー 7 5 15 階レセプションホール

9：45～開会挨拶およびご祝辞

（金田典雄、下山宏学長、岡田邦輔研究科長）

10：00～11：00 研究テーマ A（4 演題：各 15 分）

A1) ストレスによる学習・記憶障害とその分子基盤

平松正行

A2) ストレスと脳機能疾患における分子基盤研究

伊藤幹雄・小島良二

A3) 脳と環境：環境ストレスのホルモンおよび脳・神経系への影響

小嶋仲夫・植田康次

A4) 学習記憶および情動に及ぼす発達期隔離ストレスの影響

山田清文

11：00～11：15 コーヒーブレイク

11：15～12：15 研究テーマ B（前半 4 演題：各 15 分）

B1) ストレス脆弱性における基礎的研究

鍋島俊隆・間宮隆吉

B2) 神経変性疾患におけるストレス応答機構の解明

金田典雄・村田富保

B3) 神経栄養因子または神経栄養因子産生促進剤の抗うつ作用および神経保護作用や神経発達への影響の
検討

新田淳美

B4) ストレスと精神障害の発症脆弱性に関する分子の探索

野田幸裕

12：15～13：30 昼食（各自 大学内の飲食施設などでお召し上がり下さい。）

13：30～14：00 研究テーマ C（2 演題：各 15 分）

C1) ライフイベントとアイデンティティの発達に関する研究

榎本博明

C2) 心理尺度データの IRT 理論を用いた統計解析に関する研究

野口裕之

14：00～14：45 フロンティアポスドク研究員による研究成果発表

鳥海和也、于静華、浦田悠

14：45～15：00 コーヒーブレイク

15：00～16：00 研究テーマ B（後半 4 演題：各 15 分）

B5) ストレス脆弱性遺伝子と薬物反応性に関する研究

岩田仲生・亀井浩行

B6) 「不安とうつ」を示す患者の分子病態研究：統合失調症におけるストレス脆弱性の探索を中心に

尾崎紀夫・飯高哲也

B7) 統合失調症の脆弱性遺伝子産物の生理機能や作用機構の解明

貝淵弘三

B8) ストレス関連疾患に関するプロテオーム研究

永井 拓

16：00～閉会の辞

（鍋島俊隆）